

一歩進んだ日本語の教え方 文法を中心に

一橋大学国際教育交流センター教授 庵 功雄

isaoiori@courante.plala.or.jp

<http://www12.plala.or.jp/isaoiori/>

1. はじめに

- ▶ 文法は、言語表現を理解、産出するための基礎
- ▶ →外国語教育では常に必要
- ▶ ただし、現在の文法教育が正しいとは限らない
- ▶ →一歩進んだ日本語の教え方

2. 初級を教えるのに必要な観点

- ▶ 1. 産出を重視する
- ▶ 2. 項目を限定する
- ▶ 3. 規則を単純にする
- ▶ 無標と有標

2. 初級を教えるのに必要な観点

- ▶ 1. 産出を重視する
- ▶ 2. 項目を限定する
- ▶ 3. 規則を単純にする
- ▶ 無標と有標

2.1 産出を重視する

- ▶ 外国語を学ぶことの意味の（大きな）1つ
- ▶ → 「母語でなら言えることをその言語で言える」ようになること
- ▶ → （特に初級では）産出を重視すべき（「産出のための文法」）

2. 初級を教えるのに必要な観点

- ▶ 1. 産出を重視する
- ▶ 2. 項目を限定する
- ▶ 3. 規則を単純にする
- ▶ 無標と有標

2.2 項目を限定する

- ▶ 産出を重視するためには、文法項目を限定する必要がある
- ▶ →Step1, 2
- ▶ →『にほんごこれだけ！1, 2』

初級で不要な項目 －推量の「でしょう」－（庵2009）

- ▶ 「でしょう」と「と思います」はともに推量の意味で初級教科書に必ず取り上げられている
- ▶ →「でしょう。」に強い制限がある。
- ▶ (1)（推薦状の締切を講演者が尋ねたのに対する返信）
- ▶ 締切は来週の金曜日です。
- ▶ 水曜日にいただければいい??でしょう（／○と思います）。
- ▶ →「でしょう。」は「導入してはいけない」項目

同時に導入する必要がない項目

—条件—

- ▶ 条件を表す表現：と、ば、たら、なら
- ▶ →本当に4つとも（初級で）必要？
- ▶ →実際に使えているのは「たら」だけ（山内2009）
- ▶ →初級で必要なのは、「条件」の「たら」と「主題」の「なら」だけ
- ▶ (2) (○もし) 明日雨が降たら、出かけない。(条件)
- ▶ (3) A：新聞、どこに置いたかな？
- ▶ B：新聞 {なら／は} いすの上だよ。(主題)

同時に導入する必要がない項目

—条件—

- ▶ 初級で必要なのは、「条件」の「たら」と「主題」の「なら」だけ
- ▶ →それ以外は中級以降でよい
- ▶ (4) 窓を {開けると／開けたら} 、富士山が見えた。 (主語が異なる)
- ▶ Cf. (5) 窓を開けて、富士山を見た。 (主語が同じ)
- ▶ (6) この薬さえ飲めば、よくなりますよ。
- ▶ Cf. (7) この薬を飲めば、よくなりますよ。 (誘導推論)

同時に導入する必要がない項目

—条件—

- ▶ 初級で必要なのは、「条件」の「たら」と「主題」の「なら」だけ
- ▶ →それ以外は中級以降でよい
- ▶ (8) (×もし) 10時に {○なったら/?なれば}、出発します。
- ▶ Cf. (9) (×もし) 田中さんが {○来たら/?来れば}、出発します。
- ▶ (10) (○もし) 田中さんが {○来たら/○来れば}、パーティーは楽しくなります。
- ▶ (11) (○もし) 田中さんが {○来(てい)たら/○来(てい)れば}、パーティーは楽しくなっていました。(反事実)

同時に導入する必要がない項目

—条件—

- ▶ 初級で必要なのは、「条件」の「たら」と「主題」の「なら」だけ
- ▶ →それ以外は中級以降でよい
- ▶ (12) A : 来週、京都に行くことになったんだ。
- ▶ B : そうなんだ。京都に {×行ったら / ○行く (の) なら / ○行くんだったら}、
- ▶ 八つ橋を買ってきてよ。
- ▶ (13) (電話で。Bは京都に住んでいる)
- ▶ A : 来週、京都に行くことになったんだ。
- ▶ B : そうなんだ。京都に {○着いたら / ×着く (の) なら / ×着くんだったら}、
- ▶ 連絡してね。
- ▶ (14) 私が中学生に英語を {○教えるとしたら / ○教える (の) なら / ??教えたら}、
- ▶ ビートルズの歌を使うだろう。

現代日本の方言

- ▶ 現在の日本では伝統的な方言（俚言）は急速になくなりつつある
- ▶ →危機方言、危機言語
- ▶ →アーカイブ化
- ▶ その一方で、地域社会では「方言」は使われ続けている
- ▶ Ex. 行かなかった（共通語）
- ▶ 行か（へ）なんだ（大阪方言・俚言）
- ▶ 行かへんかった（大阪方言）
- ▶ →Neo dialect（真田信治）、地域共通語

現代日本の方言

- ▶ 地域社会では「方言」は使われ続けている
- ▶ →日本語母語話者の大多数は、共通語と方言のバイリンガル
- ▶ →共通語の中には多くの「気付かれない方言」が含まれている
- ▶ Ex. 食べかけてください
- ▶ 列車が曲がります

2. 初級を教えるのに必要な観点

- ▶ 1. 産出を重視する
- ▶ 2. 項目を限定する
- ▶ 3. 規則を単純にする
- ▶ 無標と有標

2.3 規則を単純にする

- ▶ 産出を重視するためには規則を単純化する必要がある

2. 初級を教えるのに必要な観点

- ▶ 1. 産出を重視する
- ▶ 2. 項目を限定する
- ▶ 3. 規則を単純にする
- ▶ 無標と有標

無標と有標

- ▶ 無標 (unmarked) : 普通の場合
- ▶ 有標 (marked) : 特別の場合
- ▶ 名付けの場合 : 無標のものには名前がない
- ▶ Ex. 点字 (有標) ⇔
- ▶ (わ) さび抜き寿司 (有標) ? (わ) さび入りの寿司 (無標)

無標と有標

- ▶ 無標 (unmarked) : 普通の場合
- ▶ 有標 (marked) : 特別の場合
- ▶ 名付けの場合 : 無標のものには名前がない
- ▶ 昨日 {○男の医者 / ○女の医者} に診てもらった。
- ▶ ○昨日女医 (さん) に診てもらった。
- ▶ ?? 昨日男医 (さん) に診てもらった。
- ▶ →有標な方だけが語彙化される
- ▶ Ex. Stewardess (→Flight attendant)
- ▶ 男まさり、女だてら、女の腐ったような奴 (ジェンダー表現)
- ▶ 働く {○人 / ○女性 / ??男性} の権利を守るべきだ。

「に」と「で」

- ▶ 一般的な説明
- ▶ (15) a. に：存在の場所
- ▶ b. で：動作、出来事の場所
- ▶ 一歩進んだ説明（庵2017）
- ▶ (16) a. に：存在の場所 （有標）
- ▶ b. で：それ以外の場所（無標）
- ▶ → 「存在」の場所さえ規定できればよい

「に」と「で」

- ▶ 一歩進んだ説明（庵2017）
- ▶ (16) a. に：存在の場所（有標）
- ▶ b. で：それ以外の場所（無標）
- ▶ → 「存在」の場所さえ規定できればよい
- ▶ 存在の場所を表すもの
- ▶ (17) a. いる、ある
- ▶ b. 場所をともなう「～てある」
- ▶ c. 「動詞＋ている」で動詞を削除しても意味が変わらない場合

「に」と「で」

- ▶ 存在の場所を表すもの
- ▶ (17) a. いる、ある
- ▶ **b. 場所をともなう「～てある」**
- ▶ c. 「動詞＋ている」で動詞を削除しても意味が変わらない場合
- ▶ (18) a. 机の上 {○に／×で} みかんが置いてある。
- ▶ b. 壁 {○に／×で} ポスターが貼ってある。
- ▶ c. 黒板 {○に／×で} 注意書きが書いてある。

「に」と「で」

- ▶ 存在の場所を表すもの
- ▶ (17) a. いる、ある
- ▶ b. 場所をともなう「～である」
- ▶ c. 「動詞＋ている」で動詞を削除しても意味が変わらない場合
- ▶ (18) a. あそこ {○に／×で} 財布が落ちている。
- ▶ b. 家の前 {○に／×で} 車が止まっている。
- ▶ c. 男性がいす {○に／×で} 座っている。
- ▶ (19) a. 子どもがプール {×に／○で} 泳いでいる。
- ▶ b. 向こう {×に／○で} 赤ちゃんが笑っている。
- ▶ c. 公園 {×に／○で} 子どもたちが遊んでいる。

3. 中上級を教えるのに必要な観点

- ▶ 3.1 重要なのは「初級」項目
- ▶ 3.2 産出できるための練習
- ▶ 3.3 読解から産出へ

3. 中上級を教えるのに必要な観点

- ▶ 3.1 重要なのは「初級」項目
- ▶ 3.2 産出できるための練習
- ▶ 3.3 読解から産出へ

3.1 重要なのは「初級」項目

- ▶ 中・上級の「文法」
- ▶ →N1、N2の試験対策？
- ▶ →実際に必要なのは、「初級」の項目を確実に産出できること
- ▶ ←重要項目ほど、多くの用法を持っている
- ▶ 初級ではそれらを扱えない

3. 中上級を教えるのに必要な観点

- ▶ 3.1 重要なのは「初級」項目
- ▶ **3.2 産出できるための練習**
- ▶ 3.3 読解から産出へ

3.2 産出できるための練習 — 直接受身

- ▶ 直接受身は、図1で表される出来事を受け手の立場から描くもの

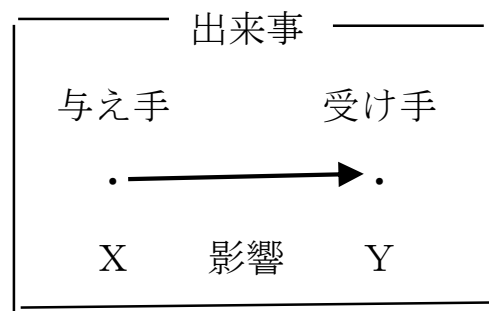


図1 二項述語で表される出来事 (1)

- ▶ 日本語では、特に影響の受け手が「私」(1人称)のときは受身を使うのが自然

3.2 産出できるための練習 — 直接受身

- ▶ 日本語では、特に影響の受け手が「私」（1人称）のときは受身を使うのが自然
- ▶ 逆に、「私」が影響の与え手のときは受身を使ってはいけない
- ▶ (21) a. ○太郎が僕をたたいた。
- ▶ b. ○僕は太郎にたたかれた。
- ▶ (22) a. ○僕は太郎をたたいた。
- ▶ b. ??太郎は僕にたたかれた。
- ▶ (23) a. ? 恋人が私にプロポーズした。
- ▶ b. ○私は恋人にプロポーズされた。
- ▶ (24) a. ○私は恋人にプロポーズした。
- ▶ b. ??恋人は私にプロポーズされた。

3.2 産出できるための練習 — 直接受身

- ▶ 日本語では、特に影響の受け手が「私」（1人称）のときは受身を使うのが自然
- ▶ 逆に、「私」が影響の受け手のときは受身を使ってはいけない
- ▶ →視点制約（久野1978）
- ▶ →中国語では制約は弱い（陳2017）
- ▶ (22) a. ○僕は太郎をたたいた。
- ▶ b. ??太郎は僕にたたかれた。（中国語ではOK）
- ▶ →「否定証拠」が必要（庵2017）

3.2 産出できるための練習 — 直接受身

- ▶ 図1で、Yが「YのZ」の形である場合、直接受身は不自然になる（庵2012）

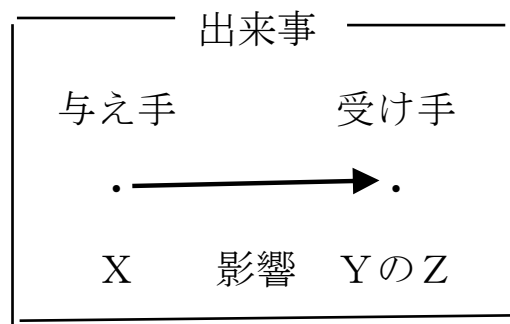


図2 二項述語で表される出来事 (2)

3.2 産出できるための練習 — 直接受身

- ▶ 図1で、Yが「YのZ」の形である場合、直接受身は不自然になる（庵2012）
- ▶ (25) a. 誰かが（私の）背中をたたいた。
- ▶ b. ×私の背中が（誰かに）たたかれた。（直接受身）（中国語○）
- ▶ c. ○私は（誰かに）背中をたたかれた。（中間的な受身）
- ▶ (26) a. 誰かが私の財布を盗んだ。
- ▶ b. ? 私の財布が盗まれた。（直接受身）（中国語、英語○）
- ▶ c. ○私は財布を盗まれた。（中間的な受身）

3. 中上級を教えるのに必要な観点

- ▶ 3.1 重要なのは「初級」項目
- ▶ 3.2 産出できるための練習
- ▶ 3.3 読解から産出へ

3.3 読解から産出へ －「のだ」

- ▶ 中・上級では、産出に加え、読解も問題となる
- ▶ 平叙文の「のだ」
- ▶ 主な用法は3つ
- ▶ (27) a. 原因・理由（「からだ」可）
- ▶ b. （状況に対する）解釈（「からだ」不可）
- ▶ c. 言い換え（「わけだ」可）
- ▶ (28) a. 昨日はいつもより早く帰った。結婚記念日だった {○のだ／○からだ}。
- ▶ b. （デパートで泣いている子どもを見て）あの子、迷子になった {○んだ／×からだ}。
- ▶ c. (A)彼は16歳から18歳までカナダで過ごした。(B)カナダの高校で勉強した {○のだ／○わけだ}。
- ▶ →論説文などでは、基本的に「言い換え」

3.3 読解から産出へ — 「のだ」

- ▶ →論説文などでは、基本的に「言い換え」
- ▶ (28) c. (A)彼は16歳から18歳までカナダで過ごした。(B)カナダの高校で勉強した
- ▶ {○のだ／○わけだ}。
- ▶ 彼は16歳から18歳までカナダで過ごした = カナダの高校で勉強した
- ▶ →同様の機能を持つもの
- ▶ つまり、 のだ。
- ▶ S1。 すなわち、S2 わけだ。
- ▶ 要するに、
- ▶ S1 = S2
- ▶ →S2がわかれば、S1がわからなくてもよい
- ▶ →重要な読解ストラテジー

3.3 読解から産出へ — 「のだ」

- ▶ (29) S1。 {つまり / すなわち / 要するに} 、 S2 {のだ / わけだ} 。
- ▶ S1 = S2
- ▶ → S2がわかれば、S1がわからなくてもよい
- ▶ → 重要な読解ストラテジー
- ▶ (30) 私の住む神奈川県には、『神奈川新聞』という最有力の地元新聞があります。この新聞が、1991年春の入試シーズンに公立高校の合格者名の報道をしませんでした。**それまでは毎年のせていた名簿が、その年はのらなかつたのです。**新聞社には、どうしてのせないのだという問い合わせ電話が、300本ほどかかったそうです。
(岸本重陳『新聞の読み方』)
- ▶ (31) もうひとつ見逃せない事件は「ユーロ (Euro) の誕生」です。2002年1月1日を期して、ドイツ、フランス、ギリシャ、イタリア、スペイン、オランダ、ベルギー、ルクセンブルグ、ポルトガル、アイルランド、フィンランド、オーストリアの12カ国は、**自国通貨のかわりに各国で共通に使える通貨「ユーロ」を採用することにしたのです。**
(中谷巖『入門マクロ経済学』)

3.3 読解から産出へ — 「のだ」

- ▶ 「のだ」は言い換え
- ▶ →言い換えは、その前の部分を読まなくてもよい
- ▶ →自分の言いたいことを「だめ押し」で伝えたいときに使う
- ▶ →多用すると、その前の部分が不要であることが目立つ
- ▶ →「のだ」は実はあまり使われない
- ▶ →理解（読解）から産出へ

4. まとめ

- ▶ 本講演では、初級と中・上級に分けて、「一步進んだ日本語の教え方」について考えた
- ▶ 重要なことは、産出を重視することと、規則をできる限り単純にすることである

参考文献

- ▶ 庵 功雄（2009）「推量の「でしょう」に関する一考察—日本語教育文法の視点から」『日本語教育』142
- ▶ 庵 功雄（2012）『新しい日本語学入門（第2版）』スリーエーネットワーク
- ▶ 庵 功雄（2013）「「のだ」の教え方に関する一試案」『言語文化』50、一橋大学
- ▶ **庵 功雄（2017）『一歩進んだ日本語文法の教え方1』くろしお出版**
- ▶ **庵 功雄（2018近刊）『一歩進んだ日本語文法の教え方2』くろしお出版**
- ▶ 庵 功雄・三枝令子（2012）『上級文法演習 まとまり作る表現』スリーエーネットワーク
- ▶ 庵 功雄監修（2010, 2011）『にほんごこれだけ！ 1、2』ココ出版
- ▶ 久野 暉（1978）『談話の文法』大修館書店
- ▶ 陳 林柯（2017）「現代日本語における視点制約に関する定量的研究」2017年度一橋大学言語社会研究科博士学位取得論文
- ▶ **山内博之（2009）『プロフィシエンシーから見た日本語教育文法』ひつじ書房**

ご清聴ありがとうございました